

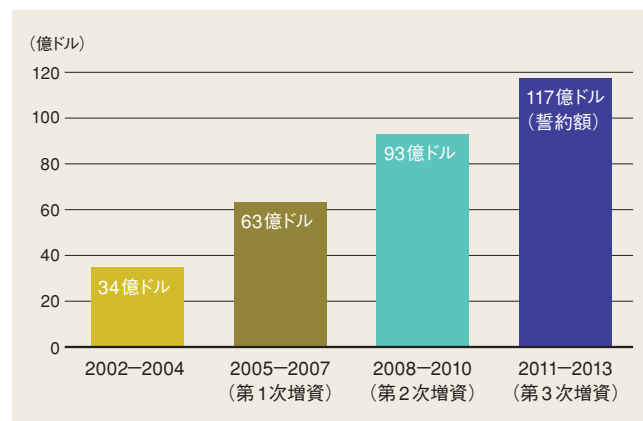
世界基金 ファクトシート

世界基金支援日本委員会では、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)の成果を定期的にとまめてご紹介しています。

■資金調達

世界基金は2002年の設立から2010年末までに国際社会から188億ドル(約2兆円)を集め、低・中所得国が行う三大感染症対策と保健システム/コミュニティ・システム強化を支援しています。さらに2011年からの3年間で117億ドルの拠出が誓約されています。

図1 資金調達額(2002-2013)



注 2010年末時点。第3次増資期間の金額は、各国からの確定誓約と一部推計が含まれる。

表1 主要ドナーと累計拠出額

単位: USドル、アルファベット順

政府ドナー 181億1735万ドル (約50カ国1機関)		その他のドナー 9億5919万ドル (民間財団、企業など)
主要拠出国		主要ドナー
カナダ	8億4381万	ビル&メリンダ・ゲイツ財団
欧州委員会	12億422万	6億5000万
フランス	24億5700万	Communitas財団
ドイツ	12億5251万	200万
イタリア	10億826万	Debt2Health(債務振り替え)
日本	14億205万	3712万
オランダ	6億99万	UNITAID
スペイン	7億2422万	3869万
スウェーデン	5億4228万	シェブロン社
イギリス	14億9680万	3000万
米国	51億3019万	コミック・リリーフ
		298万
		ギフト・フロム・アフリカ
		68万
		Idol Gives Back
		1660万
		M・A・Cエイズ基金
		87万
		プロダクトRED
		1億7153万
		武田薬品工業
		108万
		国連財団を通じた個別寄付
		733万

(累計で5億ドル以上の拠出国)

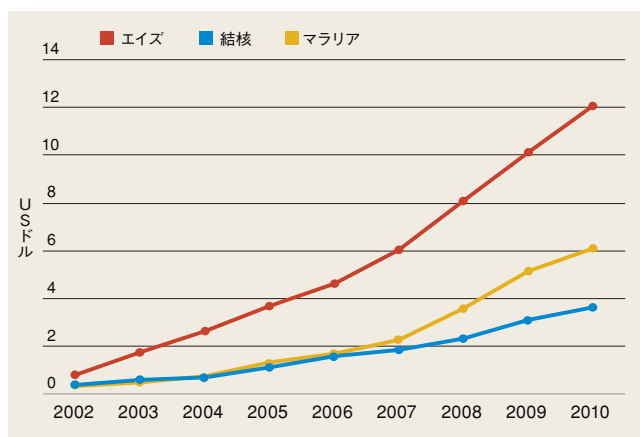
(累計で50万ドル以上のドナー)

世界基金ウェブサイトより(2011年5月24日現在)

■資金供与と成果

世界150カ国の三大感染症対策に累計で総額217億ドルの支援を承認。年間の資金供与額(支払い額)は2010年に初めて30億ドル(約2500億円)に達しました。

図2 疾病別の支援承認額(累計)



世界基金が支援するプログラムにより、これまでに以下のような成果が報告され、延べ**650万人**の命が救われたと推計されています。

- ・300万人のHIV感染者の抗レトロウィルス(ARV)治療
- ・770万人の新規結核患者の発見およびDOTS治療
- ・1億6000万張の殺虫剤処理蚊帳の配布

図3 事業実施機関別の支出割合(2009年度までの累計)

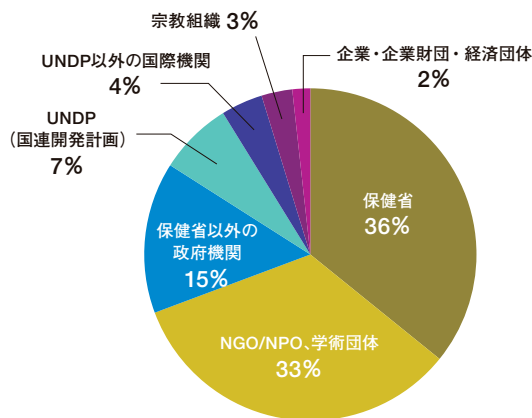
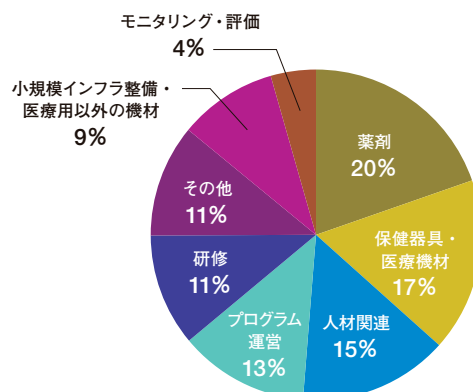


図4 事業実施機関による用途別の支出割合(2009年度までの累計)



■保健関連 MDGs (国連ミレニアム開発目標) への貢献

MDG6 / エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止

世界基金の一義的な目的はMDG6の達成に資することです。世界基金の支援の大部分は、感染症の負荷がもっとも高いにもかかわらず対策がもっとも遅れている20カ国に重点的に投資してきました。近年、低・中所得国における三疾病の罹患率と死亡率は大きく低下しています。

MDG4 / 乳幼児死亡率の削減 &

MDG5 / 妊産婦の健康の改善

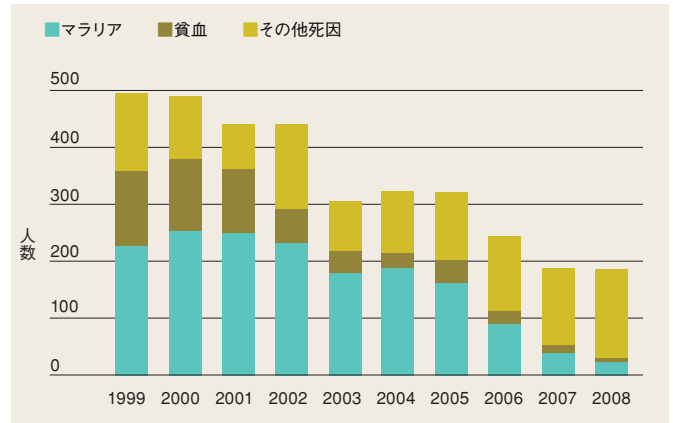
エイズ、結核、マラリアの予防・治療は、母子の健康に大きく影響します。特にHIV陽性の妊婦に治療を提供することにより生まれてくる赤ちゃんへのHIV感染を予防したり、蚊帳利用拡大などを通じてマラリアに脆弱な乳幼児や妊婦を守ることが重要になってきます。世界基金の資金供与の44～54%は、何らかの形で母子の健康に貢献していると推計されています。

保健システム強化

人材育成や出生・死亡登録制度の整備など、その国の保健システム強化のために投資することで、保健サービスを提供する際の障壁を取り除き、感染症対策の効果が上がるように支援しています。

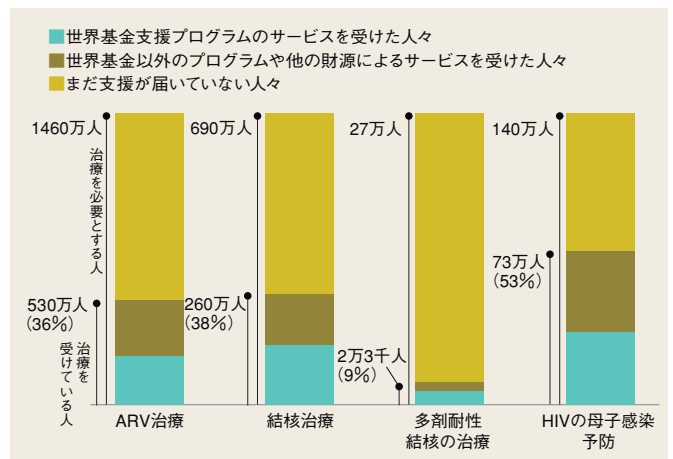
事業実施国が、世界基金をはじめとする国際社会の支援を得て感染症対策を拡大してきたなか、いくつかの国では死亡者数の減少や疾病そのものの減少が報告され始めています(図5)。しかしながら、まだ相当数の人々に支援が届いておらず(図6)、資金ニーズは依然として大きいのが現状です。

図5 タンザニア・ザンジバルの6病院における5歳未満児の死亡数(マラリア関連およびその他の死因)



タンザニア・ザンジバルは、世界基金や米国大統領マラリア・イニシアティブ(PMI)などからの支援を受けてマラリア対策を強化。すべての公立病院におけるマラリア治療薬の無料化(2003～)、殺虫剤処理蚊帳の全住民への配布(2003～)、住居内殺虫スプレー(2006～)などの結果、2001年～08年の間に、島の7病院中6病院でマラリアと貧血による5歳未満児の入院数と死亡数が80%減少した。これにより、子どもの入院と病院での死亡の全体数も半減している。(訳注：貧血とマラリアには密接な関係が疑われる。)

図6 主な保健医療サービス潜在ニーズに対する貢献度(2009年)



注 ARV治療：HIV感染者に対する抗レトロウィルス治療

■日本と世界基金

日本が議長国を務めた2000年のG8九州沖縄サミットで感染症対策が主要議題となり、追加的資金調達必要性についてG8首脳が確認したことが、世界基金設立の発端となりました。このことから、日本は世界基金の「生みの親」のひとつと称されています。様々なセクターの組織や個人が世界基金にかかわっています。

日本政府 / 累積拠出額は14億ドル(約1500億円、2010年6月現在)にのぼる世界基金の主要ドナー

国際協力機構(JICA) / アジア・アフリカ等の25カ国で、世界基金の資金供与を受ける実施機関に対し能力強化等の技術協力を実施。資金面と技術面で相互補完的な支援を行う。

NGO / 結核予防会、シェア、AMDA社会開発機構などが世界基金の資金を活用して事業実施や技術供与。アフリカ日

本協議会、エイズ&ソサエティ研究会議、日本リザルト、日本国際交流センターなどが感染症対策や世界基金に関する政策提言に取り組む。

企業 / 住友化学の蚊帳を世界基金の資金を得た途上国が調達。武田薬品は世界基金に対し10年間計10億円を寄付し保健人材の強化を支援。ANAは機内誌・ビデオで世界基金広報に協力。

●世界基金事務局に勤務する日本人職員は5名

●審査委員

井戸田一郎氏(しらかば診療所院長)

永井真理氏(国立国際医療研究センター医師)

●技術評価専門家会合委員

青山温子氏(名古屋大学大学院医学系研究科教授)

■投資価値向上のための努力(Value for Money)

世界基金では、資金供与のあらゆる段階で Value for Money（投資価値の向上）を重視しており、以下のような指標を定めて投資価値が向上したかどうかをモニターしています。

表2 投資価値向上のための対策

対策	指標	2010年目標	2010年実績
組織運営			
事務局の効率的運営	事務局運営費	総支出額の10%未満	7.7%
		総供与額の3%未満	2.3%
<p>できるだけ多くの資金を途上国に供与すべく、世界基金事務局運営費は可能な限り低く抑えられている。2010年は2.64億ドル（途上国内での代理である現地監査機関の費用を含む）で、世界基金の総支出額の7.7%、供与している資金だけで比べると2.3%にとどまる。また、設立以来の事務局運営費はほぼすべてが基金運用収益でカバーされてきた。</p>			

ポートフォリオ運営：申請予算の適正化

申請予算のレビュー	予算の節約	10% (理事会で承認された当初予算額からの節約率)	10% 2.74億ドル節約
<p>途上国から提出された予算を審査委員会が精査し、また資金供与案承認後の契約締結交渉のプロセスで世界基金事務局が精査することにより、実際に供与が始まるまでの間に予算を適正化。その結果、2010年は2.74億ドルを節約した。</p>			

ポートフォリオ運営：“実績に基づいた資金供与”を通じた適正化

“実績に基づいた資金供与”による資金の効率配分	事業実績が高い事業と低い事業の間で、実際の供与額の対当初予算比率にどの程度の差があるか	差異 30%	27%
第2期予算のレビュー	第2期予算の適正化による節約	23.5% (当初の第2期予算からの節約率)	23% 2.83億ドル節約
<p>世界基金では、通常5年間の資金供与のうち、第1期から第2期への支援継続時に大規模な中間評価を行う。第1期の成果が芳しくない事業は第2期の資金配分を減らし、その分が他の事業に資金を配分するための原資になり、事業成果のさらなる最大化と効率化を図る。</p>			

ポートフォリオ運営：調達価格の低減

調達価格の透明化と世界基金による共同調達の利用	調達した医薬品・保健器具の価格を公開するシステムへの途上国側からの報告率	100%	93%
	共同調達を利用する国の数	目標設定なし	42カ国 (2009年以来)
	共同調達で調達された金額	目標設定なし	5.02億ドル (2009年以来)

価格透明化 途上国の資金受入責任機関（多くは財務省や保健省など）は、世界基金の資金で調達した医薬品・保健器具の価格を、世界基金ウェブサイト上で公開されているデータベース Price and Quality Reporting System に定期的に入力し報告する仕組みになっている。2008年に導入され2010年には93%の機関が報告するようになった。世界基金はこれにより、各国で予算通りに執行されているか、医薬品が適正価格で調達されているかをモニターしている。また情報が公開されることで不当に高い価格で調達されることを抑止する効果も期待できる。

世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)とは

三大感染症といわれるエイズ、結核、マラリアは、世界で年間約500万人の命を奪い、途上国の開発にとって重大な障害要因となっている。世界基金は、途上国のこれら三疾病対策を支える資金を提供する機関として、2002年1月にスイスに設立された。各国の政府や民間財団、企業など国際社会から大規模な資金を調達し、開発途上国が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援のための事業に資金を提供している。2010年12月現在、世界150

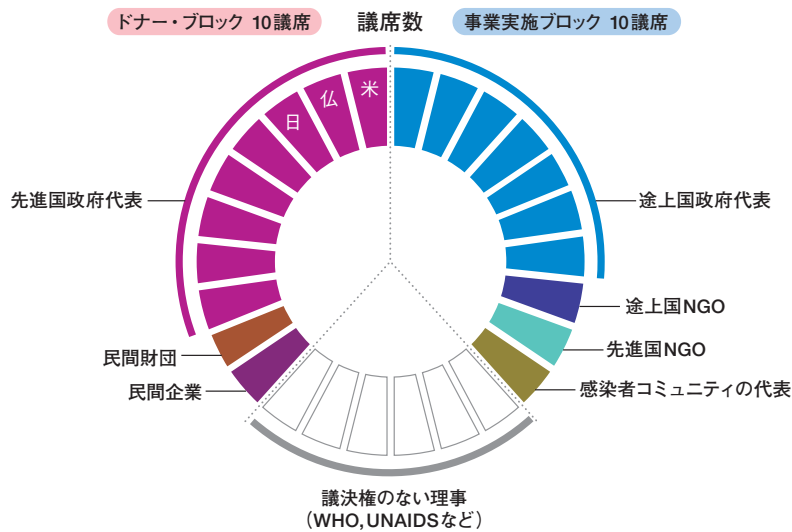
カ国の600以上の事業に総額約217億ドルの資金供与を承認している。

スイスの法律に基づく非営利法人であるが、個人や企業の出捐による民間財団ではなく、また国連システム内に新たに作られた基金でもなく、官民パートナーシップによる新しいタイプのマルチ・ステークホルダー国際機関として注目されている。二国間援助機関や国連機関と密接な連携を保ち、これら機関の感染症対策と補完関係にある。

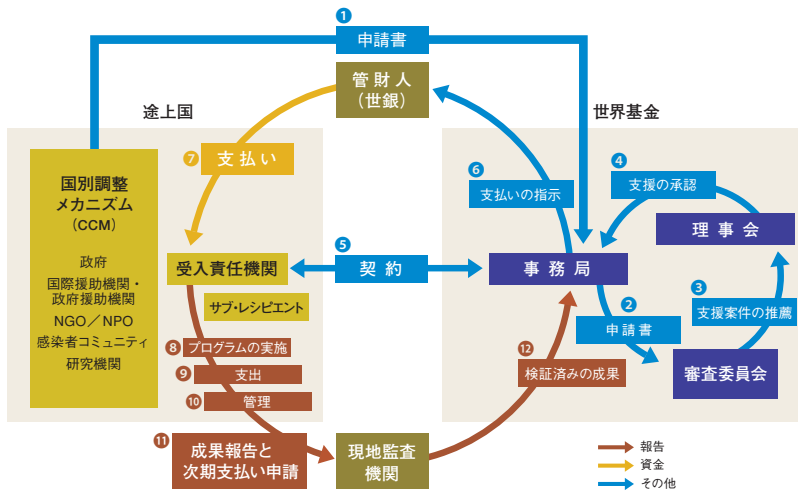
■世界基金のしくみ

ガバナンス
(理事会構成)

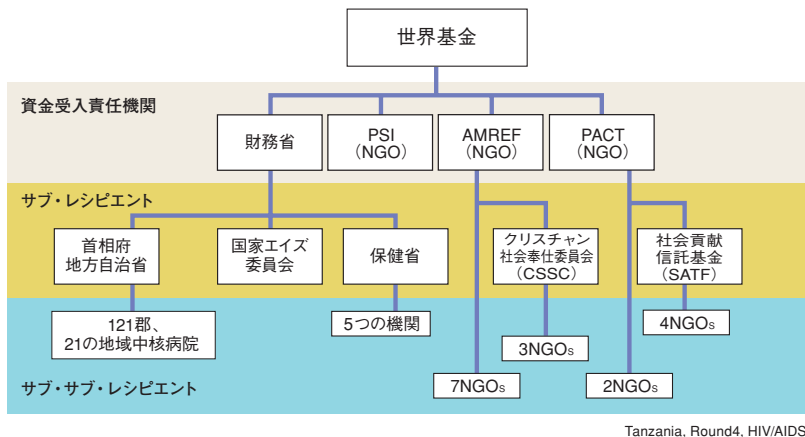
先進国政府などドナー側と、途上国政府やNGOなど事業実施側が10議席ずつ公平な議決権を持つ。日本は単独議席を持つ3カ国のうちの1つ。



資金供与サイクル



途上国内での
資金の流れの例
(タンザニア)



図表出所
●図1～6, 表2
Global Fund. 2011
(一部改変)
●P4の図
上 世界基金支援日本委員会
中 世界基金
下 Pricewaterhouse
Coopers Tanzania

参考資料
The Global Fund. 2011. Making
A Difference: Global Fund
Results Report 2011. Geneva:
The Global Fund. (2011年版成
果報告)

小松隆一 他「日本発のビジョン
が生んだ『世界基金』の役目と
は」(日経メディカル オンライン、
2011年2月24日)

本ファクトシートの編集にあっ
ては、世界基金戦略・成果・評価
局戦略情報課長小松隆一氏にご
協力をいただきました。記して感
謝申し上げます。

編集・発行：世界基金支援日本委員会
〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17
公益財団法人 日本国際交流センター内
Tel 03-3446-7781 Fax03-3443-7580
Email:fgfj@jcie.or.jp URL: www.jcie.or.jp/fgfj/